

甲南大学動物実験委員会

甲南大学では、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」の施行及び「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等を踏まえ、科学的観点と動物愛護の観点から、動物実験の適正な実施及び実験動物の適正な飼養・保管を行っております。

<学内規定・関連規則等>

2007年4月1日から「甲南大学動物実験取扱規程」を制定しました。

2021年10月28日「甲南大学動物実験取扱規程」の改訂を行いました。

2023年度

<動物実験の実施状況>

・申請課題数：20件

「電磁波及び帯電粒子が細胞に及ぼす影響に関する研究」

「免疫活性化物質の評価」

「天然物加工品の効果と作用機序に関する研究」

「脳神経系、網膜及び筋肉の形成と機能発現に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「インジェクタブルポリマーを用いた細胞移植による皮膚組織の完全再生技術の開発に関する研究」

「がん細胞表面でゲル形成する高分子を用いたがん細胞死誘導に関する研究」

「アリ科女王の長期間にわたる大量の精子貯蔵メカニズムの解明」

「オルガネラ形成と機能に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「物理的環境に対する応答シグナルとがんの病態制御メカニズム」

「がん関連遺伝子を標的とした光線力学療法の開発」

「 β -キチンゲルを用いたスプレー式癒着防止材の開発」

「細胞ゲルを用いた骨格筋組織の完全再生技術の開発」

「細胞ゲルを用いた軟骨再生技術の開発」

「動物を用いた生体組織修復剤の研究」

「植物の環境応答に関わるタンパク質の解析」

「細胞ゲル化技術を用いた膵 β 細胞移植手法の開発」

「生体組織修復剤を用いたリンパ組織の再生研究」

「心筋梗塞モデルマウスの作製および生体組織修復ゲルを用いた心筋梗塞治療法の開発」

「神経系と生体組織の機能と形成に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「網膜および中枢神経系における細胞分化とパターン形成機構の解析」

<実験動物の飼養保管の状況>

- ・使用（飼養）頭数： マウス： 521(51)
ウサギ： 5 (0)
イヌ： 0 (0)
ブタ： 1 (0)

<施設等の維持管理の状況>

- ・飼養施設： 1箇所（F-1号館305動物実験室2）
- ・実験室： 3箇所（F-1号館312、313、314実験室）

<動物実験等に関する安全管理の状況>

- ・病原体、放射性物質等を用いた動物実験は実施していません。
- ・今年度、動物の逸走等の事故は報告されていません。

<教育訓練の実施状況>

- ・実施日時： 3月30日、5月11日
- ・出席者： 69名
- ・教育動画「動物実験は機関管理されています」を視聴し、3Rsの原則や機関内規程で必要とされる事項を再確認し、それらの重要性の理解を深めた。「動物の愛護及び管理に関する法律」や「動物の殺処分に関する指針」などの改正点の重要なポイントを説明し、今後大学に求められる点とそれぞれの部局における留意点の説明を行った。今後、飼養保管等基準の制定に当たって国際的な動向に配慮する流れとなることから、日本国内での動向も重要な点であることを強調した。両生類や魚類を扱う動物実験に関しても委員会への申請ができるよう大学の規程改定が行われたことを説明した。なお、この改定により、対象となる研究室が増えたことから、受講者も大幅に増加している。